

[1] 貸切運賃料金

I 距離制運賃率表

(単位 円)					
車種別 キロ程		小型車 (2トンクラス)	中型車 (4トンクラス)	大型車 (10トンクラス)	トレーラー (20トンクラス)
10	km	12,530	14,560	18,680	23,360
20	〃	14,070	16,370	21,150	26,580
30	〃	15,600	18,190	23,620	29,800
40	〃	17,140	20,000	26,090	33,020
50	〃	18,680	21,810	28,560	36,240
60	〃	20,220	23,630	31,030	39,460
70	〃	21,760	25,440	33,500	42,690
80	〃	23,300	27,250	35,970	45,910
90	〃	24,840	29,060	38,440	49,130
100	〃	26,380	30,880	40,910	52,350
110	〃	27,910	32,660	43,300	55,460
120	〃	29,450	34,450	45,690	58,570
130	〃	30,980	36,230	48,080	61,680
140	〃	32,520	38,020	50,470	64,790
150	〃	34,050	39,800	52,870	67,900
160	〃	35,590	41,590	55,260	71,010
170	〃	37,120	43,370	57,650	74,120
180	〃	38,660	45,160	60,040	77,220
190	〃	40,190	46,940	62,430	80,330
200	〃	41,730	48,730	64,820	83,440
200kmをこえ500kmまで 20kmまでを増すごとに		3,060	3,540	4,710	6,120
500kmをこえ 50kmまで を増すごとに		7,640	8,850	11,770	15,290

II 時間制運賃率表

(単位 円)					
車種別 種 別		小型車 (2トンクラス)	中型車 (4トンクラス)	大型車 (10トンクラス)	トレーラー (20トンクラス)
基礎	8時間制	基礎走行キロ 小型車は100km 小型車以外のものもの 130km	31,280	37,440	48,690
	4時間制				
額	基礎走行キロ 3トン車まで 40km 3トン車を超えるもの 50km	18,770	22,470	29,210	36,880
加	基礎走行キロを超える場合は、10kmを増すごとに	280	340	510	710
算	基礎作業時間を超える場合は、1時間を増すごとに	2,880	3,020	3,230	3,820
額	4時間制の場合であって、午前から午後にわたる場合は、正午から起算した時間により加算額を計算する。				

III 運賃割増率

1. 地区割増料

1. 地区割増料		(単位 円)			
車種別		小型車	中型車	大型車	トレーラー
地 域		(2トンクラス)	(4トンクラス)	(10トンクラス)	(20トンクラス)
東京都特別区・大阪市		935	1,185	1,605	2,040
札幌市・仙台市・千葉市・横浜市・船橋市・川崎市・相模原市・浜松市・名古屋市・京都市		545	745	1,040	1,355
東大阪市・堺市・尼崎市・神戸市・岡山市・広島市・北九州市・福岡市・熊本市・鹿児島市					

2. 品目割増

項 目	内 訳	割 増 率
易 損 品	1. レントゲン機械、電子計算機等精密機器及びその部品	3割以上の臨時の約束による。
	2. 宮、みこし、仏壇、神仏像	
	3. ピアノ・その他楽器類及びその部品又は付属品	
	4. 度量衡器及びその部品	
危 険 品	1. 高圧ガス取締法に定める品目	2割以上の臨時の約束による。
	2. 消防法に定める品目	
	3. 毒物及び劇物取締法に定める品目	10割以上の臨時の約束による。
	4. 火薬類取締法に定める品目	
	5. 放射性物質及びこれに類するもの	
特 殊 物 件	1. 引越荷物、生きた動物、鮮魚介類	2 割
	2. 屍 体	5 割
汚 わ い 品	生さなぎ、骨の類、ぼうごう、あま皮、うろこ、内臓、塵芥等の廃棄物、し尿	4 割
貴重品・高価品	紙幣、証券類、貴金属、その他高価品で貨物運送約款第9条第1項に掲げる貨物	5割以上の臨時の約束による。

3. 特大片割増

1個の長さが荷台の長さその長さの1割を加えたもの、重量1トン又は容積5立方メートル以上のもの及び積載した状態において車両の高さが3.8メートル以上又は長さが12メートル以上となるもの。	3割以上の臨時の約束による。
--	----------------

4. 特殊車両割増

冷蔵車、冷凍車	2 割
---------	-----

4. 悪路割増

道路法による道路及びその他の一般交通の用に供する場所ならびに自動車道以外の場所に限る。	3 割
---	-----

5. 冬期割増

地 域	期 間	割増率
北海道	自11月16日 至 4月15日	2 割
青森県・秋田県・山形県・新潟県・長野県・富山県・石川県・福井県・鳥取県・島根県の全県	自12月 1日	
岩手県のうち、北上市・久慈市・遠野市・二戸市・九戸郡・二戸郡・上閉伊郡・下閉伊郡 ・岩手郡・和賀郡		
福島県のうち、会津若松市・喜多方市・南会津郡・北会津郡・耶麻郡・大沼郡・河沼郡		
岐阜県のうち、高山市・大野郡・吉城郡・益田郡・郡上郡		
	至 3月31日	

7. 休日割増

日曜祝祭日に運送した距離に限る	2 割
-----------------	-----

8. 深夜・早期割増

午後10時から午前 5時までに運送した距離	2 割
-----------------------	-----

IV 諸 料 金

1. 積込料、取卸料、附帯業務料

積込み、取卸しその他附帯業務を行った場合には、運賃とは別に料金として収受します。

2. 待機時間料

(単位 円)				
車種別 時間	小型車 (2トンクラス)	中型車 (4トンクラス)	大型車 (10トンクラス)	トラーラー (20トンクラス)
30分を超える場合において 30分ごとに発生する金額	1,670	1,750	1,870	2,220

V 消費税導入に伴う運賃料金の加算（免税対象となる取引は除く）

運賃料金総額 × 消費税法に基づく税率

VI 貸切運賃料金適用方

(1) 距離制運賃料金適用方

● 適用する運送

1. この運賃及び料金は、一般貨物自動車運送事業者が車両を貸切って貨物を運送する場合に適用します。

● 特殊運賃との関係

2. この運賃及び料金は、特殊な貨物の運送、特殊車両を使用する運送等であって、別途これらに関する運賃及び料金を届出した場合には適用しません。

● 運賃料金計算の基本

3. (1) 運賃及び料金は使用車両1車1回の運送ごとに計算します。
(2) 車両が2両以上連結して運送される場合であって、荷主が同一であり、かつ、発地及び着地が同一のときは2両以上の車両を1車として計算します。ただし、荷主が異なるとき又は、発地若しくは着地が異なるときは、それぞれの車両を1車として計算します。

● 運賃計算の方法

4. (1) 運賃は使用車両の最大積載量(標記トン数といいます。以下同じ)及び運送距離によって、運賃率表に掲げてある金額(基準運賃といいます。以下同じ)の上下それぞれ10%の範囲内で計算します。
(2) 割増率又は割引率が適用される貨物は、基準運賃にそれぞれの率を乗じた金額を基準運賃に加減した上で、上下それぞれ10%の範囲内で計算します。

● は数の処理

5. 運賃又は料金を計算する場合において生じたは数は、次により処理します。
(1) 計算した金額が 10,000円未満のときは、100円未満のは数は 100円に切り上げます。
(2) 計算した金額が 10,000円を超えるときは、500円未満のは数は 500円に、500円を超え 1,000円未満のは数は 1,000円に切り上げます。

● キロ程の計算

6. 運送距離は、1車1回運送ごとの実車キロ程によるものとし、経路が二途以上あるときは、その最短となる経路のキロ程により計算します。

ただし、荷送人が経路を指定したときは、その指定した経路のキロ程によります。

● 割増率及び割引率の重複する場合の計算

7. 2種以上の割増率又は割引率が重複する場合は、それぞれの率をあらかじめ加減した上で計算します。

● 運賃計算の特例

8. (1) 積載貨物(貨物の性質上、積み重ねて積載することができない貨物を除きます。))が標記トン数の 50%以下のときは、直近下位のトン数の車両の運賃を適用します。
この場合、容積貨物にあつては1立方メートルを 280kgグラムに換算します。
(2) 継続かつ反復して行う貨物の運送の契約において、あらかじめ特定の車両トン数を基準として運賃を算出した場合には、実際の使用車両のトン数にかかわらず、当該基準車両のトン数による運賃を適用することができます。

● 個建契約運賃

9. 長期にわたって計画的かつ大量に出荷される(1)の各号に該当する貨物の運送契約(文書をもって運送契約を締結したものに限ります。))をする場合には、運送区間ごとに(2)の式により算出した1個当りの運賃を適用することができます。ただし、1回の出荷量が基準車両の積載可能個数の 60%以上ある場合に限ります。なお、長期契約割引が適用される場合は適用しません。

(1) ① 単一品目であること
② 荷姿が一定していること
③ 1個の重量又は容積が一定していること
(2) 基準車両(運賃計算の対象となる車両)のトン数による基準運賃
当該貨物の基準車両積載可能個数 × 0.7

● 品目別割増

10. 貨物が割増品目に該当する場合には、所定の割増率を適用します。1車の貨物に割増率を適用する貨物と適用しない貨物、又は異なった割増率を適用する貨物が含まれている場合には、そのうちの最高の割増率を適用します。

● 特大片割増

11. 貨物の長さ(高さを含みます。)、重量又は容積が特に大きなときは、所定の割増率を適用します。

● 特殊車両割増

12. 特殊車両を使用した場合は、所定の割増率を適用します。ただし、積載した貨物に品目別割増を適用した場合には適用しません。

● 悪路割増

13. 運送区間中に、悪路割増適用区間に該当する部分がある場合には、次の式により算出した金額を加算します。
悪路割増区間の運送距離に対応する基準運賃 × 0.3

● 冬期割増

14. 運送区間中に、冬期割増適用地域に該当する部分がある場合には、次の式により算出した金額を加算します。
冬期割増区間の運送距離に対応する基準運賃 × 0.2

● 休日割増

15. 日曜祝祭日及びそれにまたがる運送については、次の式により算出した金額を加算します。
日曜祝祭日に運送した運送距離に対応する基準運賃 × 0.2

● 深夜・早期割増

16. 深夜・早期割増の適用時間(午後 10時から午前 5時まで)に行われる運送については、次の式により算出した金額を加算します。
深夜・早期割増適用時間に運送した運送距離に対応する基準運賃 × 0.2

● 長期契約割引

17. 3ヵ月以上にわたる契約(文書をもって運送契約を締結したものに限ります。))により、継続かつ反復して運送される貨物(1回の運送距離が 200キロメートルを超えるものに限ります。))については、基準運賃に対して 15%以内の割引率を適用することができます。

● 往復貨物の割引

18. 1個の契約で、同一の車両により通常の車両回送の範囲内において往復貨物の運送(それぞれ 100キロメートル以上の運送に限ります。))を行う場合であって、次の(1)又は(2)のときには往路及び復路の基準運賃について、それぞれ 20%以内の割引率を適用することができます。
ただし、長期契約割引が適用される場合は適用しません。
(1) 往路及び復路の貨物が同一荷主のものである場合
(2) 往路の荷主が復路の貨物をあつせんし、その運賃料金の支払について連帯責任を負う場合

● 積込料、取卸料、付帯業務料

19-1. 荷送人又は荷受人の依頼により貨物の積込み又は取卸しを引き受けた場合には積込料又は取卸料を収受します。

(1) 車上における貨物の積み付けであって、シート、ロープなど通常備えている積付用品による作業は当店の負担において行います。

(2) 作業員を複数配置した場合には、人数と作業時間に応じて収受します。

(3) 積込み又は取卸し作業の際に荷役機械及び副資材を使用した場合等には別途実費を収受します。

● 待機時間料

19-2. 車両が貨物の発地又は着地に到着後、荷送人又は荷受人の責により待機した時間(荷送人又は荷受人が貨物の積込み若しくは取卸し又は附帯業務を行う場合における待機した時間を含む。))に応じて待機時間料を収受します。
ただし、1回の運送において2箇所以上で待機が発生する場合は、それぞれについて合計するものとします。

● 地区割増料

20. 貨物の発地又は着地が、「Ⅲ－(1)」の区域である場合には所定の地区割増料をいただきます。
ただし、貨物の発地及び着地が同一都市内又は隣接都市間の場合は、発地又は着地のいずれか一方についてのみ収受します。

● 消費税導入に伴う運賃料金の加算方法

21. (1) 運賃及び料金の総額に消費税法に基づく税率を乗じて計算します。
(2) 前号により計算した金額に1円未満のは数が生じた場合は、1円単位に四捨五入します。

● 計算の順序

22. 運賃及び料金の計算は、次の順序により行います。

- ① 使用車両及び運送距離による運賃の計算
- ② 割増率及び割引率の適用の計算
- ③ 上下それぞれ 10%幅の適用計算
- ④ 5による運賃のは数処理
- ⑤ 諸料金(は数処理を含む)の計算
- ⑥ 21による加算の計算
- ⑦ 実費の計算

● 実費負担

23. 次項に定める荷役費用及び荷主の要求により要する次に掲げる費用は、実費として収受します。
(1) 有料道路利用料
(2) 架装費用
(3) その他運送に関連して求められるサービスに対する費用
24. 荷主の要求により行う品代金の取立て、荷掛金の立替え、貨物の荷造り、仕分、保管、検収及び検品、横持ち及び縦持ち、棚入れ、ラベル貼り、はい作業その他の附帯業務に伴う費用は、実費として収受します。

25. フェリー・ボート利用料(自動車航送船利用料)
運送区間中にフェリー・ボートを利用して運送する場合には、次の式により算出した金額を収受します。
〔使用車両の航送料(助手に係る旅客運賃を含む) + 航送期間中の固定費〕
(1時間当り待機時間料相当額 × 航送所要時間)〕× 2

26. 燃料サーチャージ
別に定めるところにより収受します。

● その他

27. この運賃及び料金の適用に関して、この適用方に定めのない事項については、法令に反しない範囲で、当事者間の取り決め又は慣習によるものとします。

(2) 時間制運賃料金適用方

● 運賃料金計算の基本

1. この運賃及び料金は、距離制運賃によることを適切としない運送又は荷主との契約で、これによることとした運送に適用します。
2. この運賃及び料金は、使用車両及び時間制の別(8時間又は4時間制の別)ごとに計算します。
● キロ程及び時間の計算
3. 走行キロ及び作業時間の計算は、使用車両が荷主の指定した場所に到着したときからその作業が終了して車庫に帰着するまでについて行います。
● 従業員
4. 運送に従事する従業員の数は、1車につき1人とする。
● 距離制運賃料金適用方の準用
5. 距離制運賃料金適用方の 1,2,4,5,7,10から16,19-1,21から27までは時間制運賃料金を適用する場合に準用します。